



平和の 願いをこめて 2025

— 今、語り継ぐ 戦争の体験 —
港区戦争・戦災体験集
第4集



港区平和都市宣言40周年



平和の願いをこめて2025

— 今、語り継ぐ 戦争の体験 —

港区戦争・戦災体験集第4集

平和の願いをこめて
2025

— 今、語り継ぐ 戦争の体験 —
港区戦争・戦災体験集
第4集



2025 平和の願いをこめて

— 今、語り継ぐ 戦争の体験 —
港区戦争・戦災体験集 第4集



港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

港区戦争・戦災体験集（第4集）の発行にあたって

区は、戦後40年にあたる昭和60年8月15日に、広く核兵器の廃絶を訴えるとともに心から平和の願いをこめて「港区平和都市宣言」を行いました。

戦後80年・港区平和都市宣言40周年を迎えようとする現在、日常生活において、戦争体験者から当時の経験や思いを直接聞く機会はほとんどなくなっています。私たちが暮らすここ港区も、かつて空襲によって区域の約半分が焦土と化し、多くの方が亡くなりました。そして、今この瞬間にも戦争によって平穏な暮らしを奪われ、苦しんでいる人たちが世界各地にいます。

幅広い世代が、戦争や戦争がもたらす惨禍を自分ごととしてとらえ、次世代に戦争の悲惨さを伝えていくこと、平和や命の尊さにつ

いてそれぞれが考え行動することが、ますます大切になっています。

令和6年には、被爆者の立場から核兵器の廃絶を訴え続けた日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞し、核兵器のない世界を実現するための努力と、核兵器が二度と使われてはならないことを証言によって示していくことの意義や重要性が、世界に広く伝わることとなりました。

このたび発行する「戦争・戦災体験集（第4集）」では、区内在住・在学の学生が、83歳から101歳までの11名の戦争体験者にインタビューを行い、当時自分たちと同じように子ども・若者だった方々が、戦争やその前後にどのように暮らしていたか、またそれぞれの平和への思いを丁寧に聞き取りました。そ

して、特に若い世代に対し、この体験集を通じて、地域で起こったことや体験者の証言を分かりやすく伝えるために、構成や表現に工夫をしています。

多様な人が暮らし、多くの人やモノ、文化が行き交う「港」であるこのまちで生まれ育つ皆さんが、戦争が過去に人々の命や暮らし、選択を奪ったことを知り、平和について考え、更にその思いを様々な人とのふれあいの中で伝えていただくことを願っています。

本書の発行にあたり、時に涙ながらにインタビューにご協力いただいた方々、資料提供、編集にご協力いただいた全ての方々に、心から感謝を申し上げます。

監修にあたって

慶應義塾 福澤研究センター 准教授
都倉武之……とくら・たけゆき

戦後80年と呼ばれる年になりました。日本が国家意思としての戦闘を停止した1945年8月15日（国際法上は9月2日）から80年が経過するわけですが、逆に1945年から80年遡ると1865年、慶応2年になります。1868年の明治維新の前夜として捉えると、日本の近代以降の歩みの半分は戦争の繰り返しだった時代、後半は、日本自身は戦争の主体とならなかった時代とみることができ

の嫌悪というよりも、戦争に対する体験的な感覚——自らの体験であったり、あるいは自分の両親や祖父母、近所の人など、身近な者から伝え聞き、感じ取った感覚も含む——による力が大きかったと感じられます。

しかしその後半の時代においても、世界では戦争が絶えることはありませんでした。日本が、国家としての意思を戦争という手段によって訴えることがなかったということが全てだとは考えませんが、少なくとも日本人が戦争というものに、非常に強い忌避の感覚を持ち続けてきたことが、この80年の戦火を交えない歴史の一つの契機となっていることは間違いないことでしょう。そしてそれは、学校で習うなどの「知識」としての戦争へ

国際政治は冷徹なもので、人道主義も人間愛も生命の尊さの主張も、圧倒的な武力格差の前では無力であることも、人類が体験してきた悲しい現実です。しかし、それでも、です。戦争を求めず、しかし戦争を忘れず——。戦争の時代の先人たちの歴史を、これからの日本の歩みにおいて、さらには世界の歴史において、意味あるものにしていく、続けていくということを後に続く世代は担い続ける必要があるでしょう。

港区としてこのような形で戦争体験を記録する試みは、今回が最後になると聞いています。この記録が、過去の分も含めて末永く読み継がれ、少しでも力を持続けることを願います。

凡例

本書に収録した体験記は、子どもから大人まで幅広い年代の読み手にとって分かりやすいよう、次のような方針で編集・作成しました。

1 インタビューについて

港区の平和青年団および港区平和都市宣言40周年事業実行委員会のメンバーによるインタビュー形式で聴き取りを行い、主旨をまとめ文章にしています。□語体でのインタビュー内容を文章化した際、分かりにくいものは、表現を一部修正しました。

2 手記について

投稿いただいた原稿は、原則として原文を尊重しましたが、紙面の都合により、本人の了解を得ながら表記の修正をしたものや原文の一部のみの掲載としたものがあります。

3 共通項目

①漢字は、原則として常用漢字を用いましたが、固有名詞など、一部常用漢字表にない漢字も用いています。なお、人名や常用漢字表にない漢字が含まれる語句などには、ふりがなをふっています。（原則、部ごとの本文初出のみ。）

②□述内容・原文の尊重を原則としていますが、現在あまり使用されていない言葉は、言い換えを行っています。ただし言い換えが困難なもの、または言い換えると意味や語りのニュアンスが伝わらないものは、そのまま使用しています。

③本書の目的は、当時の個人の戦争・戦災体験談を読み手に伝えることです。史実についてはできる限り配慮しましたが、一部事実確認ができない事象・内容も、体験者の記憶を尊重し、そのまま掲載しています。

④当時使用されていた言葉で、現在では不適切と思われるものについては、□述内容・原文尊重を原則とし、そのまま掲載しているものがあります。

⑤戦争体験者およびインタビューの年齢は、原則、令和7（2025）年3月31日時点のものです。

港区平和都市宣言

3

港区戦争・戦災体験集(第4集)の発行にあたって

5

第1部 特集・港区と戦争

1 軍都としての港区

日本の近代化と戦争
港区と軍隊

地図である 港区にあった軍の施設

COLUMN コラム 旧乃木邸／二・二六事件と港区

18 16 15 14

2 動員される若者たち

日本の軍隊 徴兵と階級
図解である 動員される若者たち

日中戦争から太平洋戦争へ

COLUMN コラム 戦争の呼称

24 23 20 19

3 港区と空襲

本土空襲の拡大

港区の空襲

データである 空襲の被害

地図である 空襲による焼失区域と建物疎開区域

32 30 27 25

4 戦時中の暮らし

国民の総動員へ
統制される衣・食・住

モノである 戦争中の衣・食・住

38 37 35

5 戦争と子ども・女性

勤労働員と学童疎開
港区における勤労働員・学童疎開

地図である 港区の学童疎開

戦時下の女性たち

COLUMN コラム 戦前の学制

48 46 44 43 40

6 終戦と復興

終戦と占領統治

港区の戦後復興

COLUMN コラム 港区と「終戦」

55 52 49

年表 近代の戦争と港区

56

港区戦争史跡めぐり

60

第2部 戦争体験の記録

池田林太郎さん(いけだ・りんたろう)

70

疎開したのに栄養失調 「迎えに来て」と書いたはがきは検閲で没収されました

泉宏さん(いずみ・ひろこ)

80

「日本は負けるぞ」と諭す兄に「いざとなったら神風が吹く」と僕は言い返したのです

井上繁さん(いのうえ・しげる)

90

「なぜこんな死に方をしなくてはならないんだろう」大量の焼けた遺体に呆然としました

可児忍さん(かに・しのぶ)

100

負けることを予想していた軍の内部 豊富に蓄えられていた物資を将校たちは要領よく持ち帰っていった

河村弘一さん(かわむら・こういち)

110

手縫いのグローブで白球を追う焼け跡の野球少年

高橋雅雄さん(たかはし・まさお)

120

まわりで燃える焼夷弾の火を端からスコップで叩いて一生懸命に消しました

武恒雄さん(たけ・つねお)

130

芋で作った飴を運び闇市の問屋で売りさばいたお金で家族みんなが生き抜いたんです

中嶋房子さん(なかじま・ふさ子)

140

いつでも白いご飯を好きだけ食べられる そんな幸せなことってないんですよ

コラム

1	隣組	72
2	空襲に耐えた山陽堂書店	85
3	戦災孤児	86
4	映画「ハワイ・マレー沖海戦」	92
5	建物疎開	94
6	東京造兵廠	104
7	八木アンテナ	107
8	白金の映画館、演芸館	116
9	「言ハット」の太下弘	117
10	軍事教練	124

11	軍需工場	126
12	アメ横	136
13	担ぎ屋	137
14	機銃掃射	145
15	指定食堂	147
16	占領下の米軍施設	156
17	60年安保闘争	157
18	千人針	162
19	宇都宮の輜重兵	173
20	農村への学徒勤労働員	176

インタビューを終えて

180

森信子さん(もり・のぶ子)

170

もっと数学を勉強したい！ せっかく進学した東京での学びは、戦争で絶たれたけれど……

廣瀬房代さん(ひろせ・ふで子)

160

川へ向かうか、山へ向かうか 燃えさかる下町を逃げながらそれが命の分かれ道となりました

中西寿一さん(なかにし・じゅいち)

150

焼き払われた自宅の跡にシンクとジャムの缶だけが残っていました

第3部 港区平和都市宣言40周年

40年のあゆみ

188

戦争・戦災体験集をふりかえる
第1集から第3集まで

地図で読む
旧芝区

190

地図で読む
旧麻布区

192

地図で読む
旧赤坂区

194

テーマで読む

196

用語解説

202

協力

208